

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

「税金」が繋ぐ未来

阿蘇市立一の宮中学校

三年 後藤 梨南子

「税金」この言葉を耳にするとどこかマイナスなイメージが頭をよぎる。まだ税金のある意味を知らなかった私は、「税金を集めてどうするの。お金をとられるなんて嫌だな。」と思っていた。

中学校三年生の夏、授業の一環として日本の財政について考える機会があった。講師の人から税金のある意味と日本の財政について教えてもらった時、私の考えは変わった。

税金の使われ方、それは様々だ。医療費の支援や年金、公共事業や防衛などどれも日本に住む国民の為に使われている。小さい子どもから高齢者の方までそれぞれの生活などを税金は支えている。また、国内に限らず経済協力などで他国への資金援助としても使われている。税金は日本の国民や他の国を支える大切なものののだ。

その中でも私にとって一番身近な税金の役割、それは医療費の支援だ。七年前、私の父は仕事中に事故にあい、大怪我をおってしまった。父は救急車で大きい病院へと運ばれ、その後手術をし、入院した。一命を取り留めたため良かったが、金額は相当なものだったと思う。そんな時に助けてくれたのは税金だった。救急車の代金や医療費の一部を負担してくれたのだ。日本の国民の方達が納めてくれた税金が私の家族を支えてくれた。そう思うと感謝でいっぱいになる。そして、私も税金をちゃんと納めて誰かを支える力になりたいと思う。

「税金」それは私達にとって必要不可欠なものであり、支えでもある。世間ではあまりその役割は知られていないかもしれない。しかし、税金はずっと私達のことを支えてきてくれたのだ。現在の日本の財政はお世辞にも良いとはいえない。年々、国債を重ねてどうにか財政を保ってきた結果、現在の日本の国債は約一一〇五兆円にまでのぼるという。この国債の負担を先送りにしてしまったらどうなるのか。その国債を負担するのは将来の国民だ。過去から積み重ねてきた国債の負担を先送りにするのではなく、今の私達が、国民が、日本が向き合っていくべきだと考える。

「税金」それは日本や国民の生活を支えてくれる大切なものだ。所得税や消費税など払わなければいけないものも多いが、それに対しての給付が他国と比べると手厚い。子育てや教育の面、医療、公共事業など多くの支援をして私達をサポートしてくれている。「税金」は日本を支え、未来をつくり、他国を助ける。私達と繋がり深い「税金」を国民一人一人が理解し、しっかりと納めることが大切だ。そして国民を支え、日本を未来へと繋ぐ税金のことを次世代へ伝えていかなければならない。